

一貫パレチゼーションへの取組み

2022年10月28日

ライオン(株) 執行役員
サプライチェーン企画本部長
南川 圭

(本日の内容)

1. パレット配送拡大への取組み
(取引制度改定)
2. レンタルパレット(ワンウェイ方式)導入
3. 現状と今後の課題

1.パレット配送拡大への取組み

●1990年代後半～2000年代初頭

LIONの物流拠点再編(26→11カ所)

卸店の集約・再編→2大卸店の巨大物流センターの建設



卸店への配送形態の変化

4t車→10t車

工場→卸店物流センターへの直送

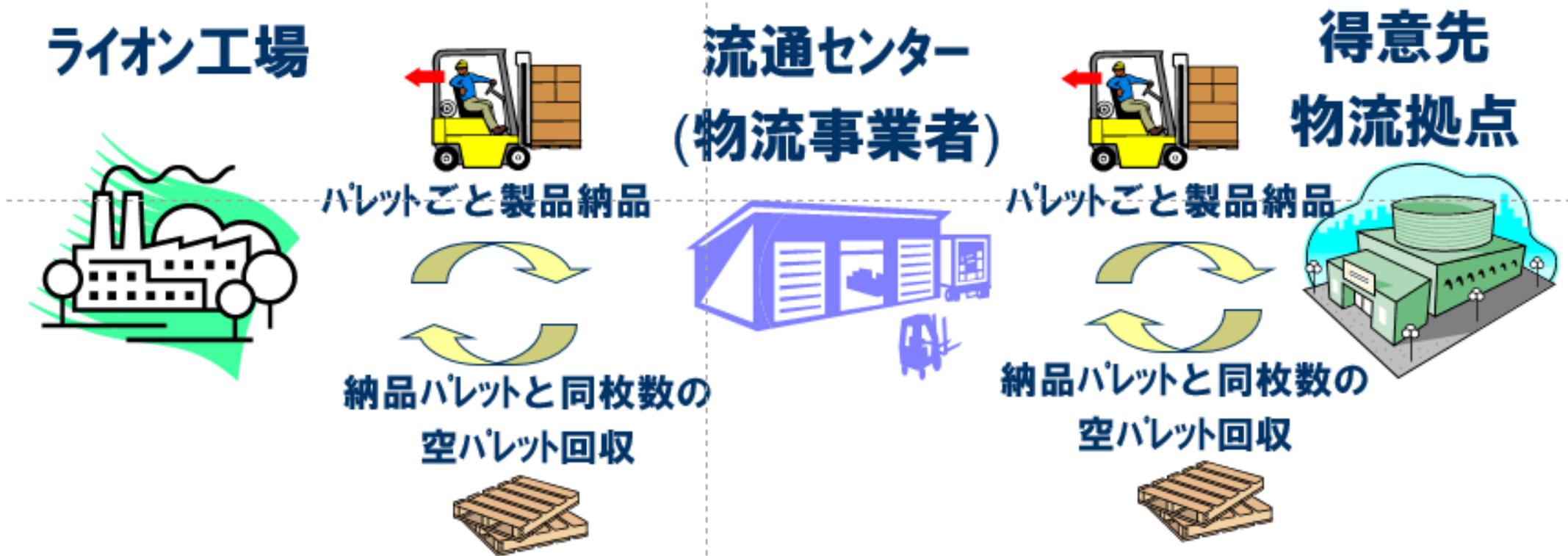


『束ね効果』による、輸配送効率アップ

『パレット配送』と『パレットの等価等枚交換』を取引制度*に反映

*「パレット単位での荷扱い」による物流効率向上効果をライオンと卸双方が享受するため

一貫パレチゼーションが進展



1)仕様: T11型R2木製(通称赤パレ)

(平面1,100mm × 1,100mm × 高さ144mm 両面使用 重量約35kg)

2)当社使用枚数

日雑 約20万枚 薬品 約1万枚

パレット管理の問題点(当時)

ライオン工場



パレットごと製品納品



納品パレットと同枚数の
空パレット回収



流通センター
(物流事業者)



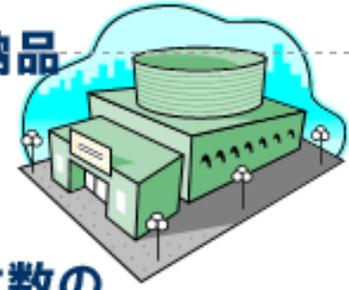
パレットごと製品納品



納品パレットと同枚数の
空パレット回収



得意先
物流拠点



得意先側 返却用パレット不足等の事由により
等価交換停滞。未返却発生。(数万枚!?)

2. レンタルパレット(ワンウェイ方式)導入

1) 背景と目的: ①得意先からの要請と現行パレット管理負荷軽減

②物流業界の市場構造変化

ドライバー不足による車両不足

⇒バラ荷役・空パレット回収が制約になる可能性

2) 変更内容:

16年7月~: 日本パレットレンタル(株)(略称JPR)のワンウェイレンタル方式を採用

①JPR共同回収店(PALTAC・あらかた他全体の90%)

ワンウェイ化により、営業部門での残高確認、物流部門での月次パレット残高相互確認を省略(JPRのパレット管理システムを活用)

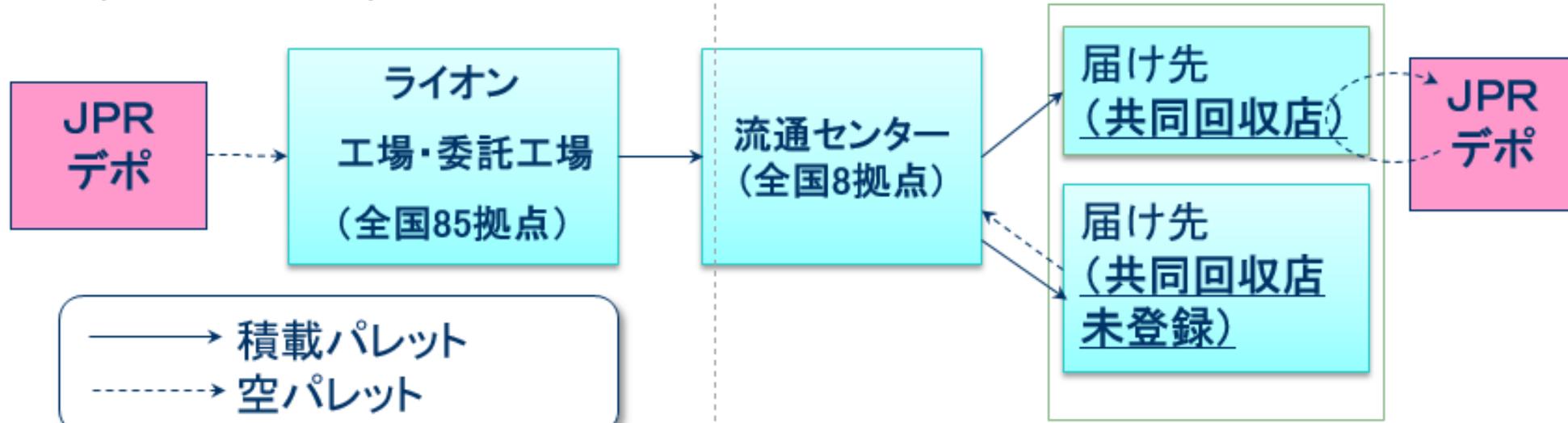
②JPR共同回収未登録店

現行の等価交換から変更無し。

2. レンタルパレット(ワンウェイ方式)導入

■ワンウェイレンタル方式について①

- ・JPR(日本パレットレンタル(株))の共同回収店となっている届け先は、JPRが空パレット(JPRパレット)の回収を行います。



※未登録店は現行管理と変更無し

ワンウェイ後

JPR専用の伝票を使用

■ワンウェイレンタル方式について②

- ・伝票について専用伝票を活用した管理となります。
(それまでは各社ごとの伝票)

3. 「一貫パレチゼーション」 今後の課題認識

- 1) 海外⇔日本間の物流に係るパレット輸送
>コンテナバラ積み、港での積替えが発生
- 2) 大規模災害発生時や急激な物量の増加(COVID-19)時の、パレット枚数確保
>輸配送時の必要量の増加と滞留枚数の増加時にパレット不足が懸念される
- 3) 物流の見える化に向けた「輸配送情報とパレット情報の統合」
>パレット単位の出荷製品情報、複数メーカーのレンタルパレット管理の統合

以 上

ご清聴ありがとうございました。

【ご参考】 南川の経歴

- | | | |
|-------|-----|------------------------|
| 1988年 | 4月 | ライオン(株)入社 |
| 同年 | 6月 | 千葉工場(管理グループ・システム担当) |
| 1991年 | 10月 | 生産事業本部 生産管理部(生産計画担当) |
| 1998年 | 8月 | ライオンハイジーン(株)出向(事業計画担当) |
| 2002年 | 2月 | 経営企画部(生産部門・物流子会社等担当) |
| 2011年 | 1月 | LOCOS推進部長 |
| 2012年 | 1月 | 生産本部生産管理部長 |
| 2014年 | 1月 | 生産本部小田原工場長 |
| 2017年 | 1月 | 経営企画部長 |
| 2022年 | 1月 | 現職 |